審議会等の会議結果報告

１．会　議　名	令和６年度第３回松阪市総合教育会議
２．開 催 日 時	令和７年１月24日（金）　15時～16時30分
３．開 催 場 所	松阪市役所　第２分館　教育委員会室
４．出 席 者 氏 名	出席委員　竹上真人市長、中田雅喜教育長、服部美由紀教育委員、松江茂教育委員、安岡幹根教育委員、松岡曜子教育委員 事務局　藤木企画振興部長、川上経営企画課長、小川経営企画課経営企画担当主幹、西山経営企画課政策経営係長、教育委員会事務局 刀根局長、金谷次長、西浦教育総務担当参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、小泉学校支援課長、御堂子ども支援研究センター所長ほか
５．公開及び非公開	公　開
６．傍 聴 者 数	２人（内、報道関係２社）
７．担　　当	松阪市企画振興部　経営企画課 TEL　０５９８－５３－４３１９ FAX　０５９８－２２－１３７７ e-mail　kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・協議事項

１）松阪市教育大綱の策定について

２）学力差について

３）ＩＣＴと視力について

◎会議要旨は別添

令和６年度　第３回松阪市総合教育会議 要旨

開催日時：令和７年１月24日（金）　15時～16時30分
開催場所：松阪市役所 第２分館 教育委員会室

出席委員：竹上真人市長、中田雅喜教育長、服部美由紀教育委員、松江茂教育委員、安岡幹根教育委員、松岡曜子教育委員

事 務 局：藤木企画振興部長、川上経営企画課長、小川経営企画課経営企画担当主幹、西山経営企画課政策経営係長、教育委員会事務局 刀根局長、金谷次長、西浦教育総務担当参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、小泉学校支援課長、御堂子ども支援研究センター所長ほか

傍 聴 者：２人（内、報道関係２社）

・市長あいさつ

【松阪市総合教育会議設置要綱第４条に基づき、竹上市長が議長となり進行】

１）松阪市教育大綱の策定について
資料　Ｒ６松阪市教育大綱

◇ バリアフリー化等設備について
委員から、バリアフリー化、各学校のLED化、教室のエアコン設置について質問があり。事務局からは、バリアフリーは障がいのある子どもが入学時に対応、LED化は令和７年度にリース方式で進行中、エアコンは全面設置済み、体育館の空調は令和７～８年に予定とのことであった。

◇ 教職員の働き方とキャリア教育について
委員から、教員採用試験の受験者減少を受け、現場の先生方に教育の楽しさややりがいを発信してほしいと提案があった。事務局は、教育ビジョンにはキャリア教育と地域との関わり（コミュニティスクール）を掲げていると回答した。

◇ 教育大綱の目的と期待
委員は、この大綱が子どもと教職員の生活向上に直結することを願い、金融教育やキャリア教育の推進についても言及した。教育長は、特に就学前教育に焦点を当て、関係団体と連携しながらビジョン策定を進めたいとの意向を示した。

２）学力差について
資料１　松阪市の学力向上に向けた取組等に係る参考資料
資料２　学校取組例資料
資料３　未来ポッケ（大江中学校区）
資料４　阿坂公民館の取組
資料５　ていすい未来塾チラシ

◇ 学力差と学力向上の取組
教職員からの意見によると、生徒間の学力差を縮めるための時間が不足しているとのこと。しかし、松阪市の教育取組は成果を上げており、特に自己肯定感が学力向上に重要である。教材への理解やチャレンジ精神が育まれていることも報告され、先生方の努力の成果が確認されている。

◇ 保護者との関係とコミュニケーション
委員は、子どもたちが先生に褒められることがやる気につながっていると述べ、学校側が塾に通えない生徒への支援を行っていることを評価。また、先生と保護者の直接コミュニケーションが重要だとし、指導方法の改善要望を挙げた。

◇ 放課後の活動
放課後の過ごし方に関し、SNS やゲームが多い一方、「殿町中学校の木曜学習」や「未来ぽっけ（大江中学校）」の成果が評価されている。放課後児童クラブは子どもたちの居場所としての意味が大きく、今後の教育との結びつきが期待されている。教育長は自己肯定感を育む場としての役割を重視している。

◇ 地域貢献と活動
委員は地元の祭りやボランティア活動といった地域との関わりの重要性を強調。市長は、中学生が地域活動に参加する割合が増えている現状を評価している。

◇ 全体の方針と今後の計画
学力向上と地域関与の取り組みが進んでおり、今後も教育の充実を目指す。来年度の教育プランとして、家庭学習の再定義や個別最適化された宿題の提案を検討している。また、保護者が関与する教育活動も視野に入れている。

３）ＩＣＴと視力について
資料　「ＩＣＴと視力」資料

◇ ICT 教育と視力への影響

市長によると、ICT 教育に悪い点はないと考えていたが、視力には影響があるとの指摘を受けた。委員からは、タブレットを上手に使っていることで授業が楽しくなったとの意見がある。視力低下の懸念もあるが、資料のデータからは関連性が確認できないとの指摘もある。

◇ 生活習慣と端末使用
コロナ禍での生活習慣チェックシートを使って子どもが自主的に管理する姿勢が見られた。県が始めた取り組みであり、希望する学年に配布されている。また、委員は保護者に対して端末の使用制限や監視機能の活用を促すべきと提案。

◇ 6S の重要性
委員より「6S」という健康維持の考え方が紹介された。姿勢、照明、睡眠、食事、スポーツ、制限を意識することで、目を守ることができる。特に、小学校での端末使用指導が重要とされた。

◇ 教育と自己肯定感
教育長や委員からは、義務教育期間中に良い生活習慣を身につけることや、自己肯定感の向上が大切であるとの意見が出た。子どもたちのモチベーションを上げるとともに、教職員の満足度も考慮すべきという指摘があった。

◇ 結論
ICT 教育自体は悪くないが、視力への影響や端末利用における生活習慣の重要性が再確認された。生活習慣は早期からの教育が必要とされ、6S のような具体的指導が提案された。さらに、教育環境全体で教職員のモチベーション向上も課題とされている。

≪16 時 30 分　終了≫